

第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和6年12月11日（水）
第5校時
対 象 第5学年2組 34名

1 単元名 ロボットとの未来を考えよう 「弱いロボット」だからできること（東京書籍）

2 単元の目標

どんなロボットがあるとよいか、話し合いを通じて自分の考えを変容させたり深めたりできる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報を関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使っている。	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つかったり、論の進め方について考えたりしている。 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	① 進んで二つの文章から多角的に捉え、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。

4 指導観

（1）この単元の扱いについて

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説第2章第1節国語編の第5学年及び第6学年内容を受けて設定した。

知識及び技能「（2）情報の扱い方に関する事項」

（2）話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
思考力、判断力、表現力等「C読むこと」

（1）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

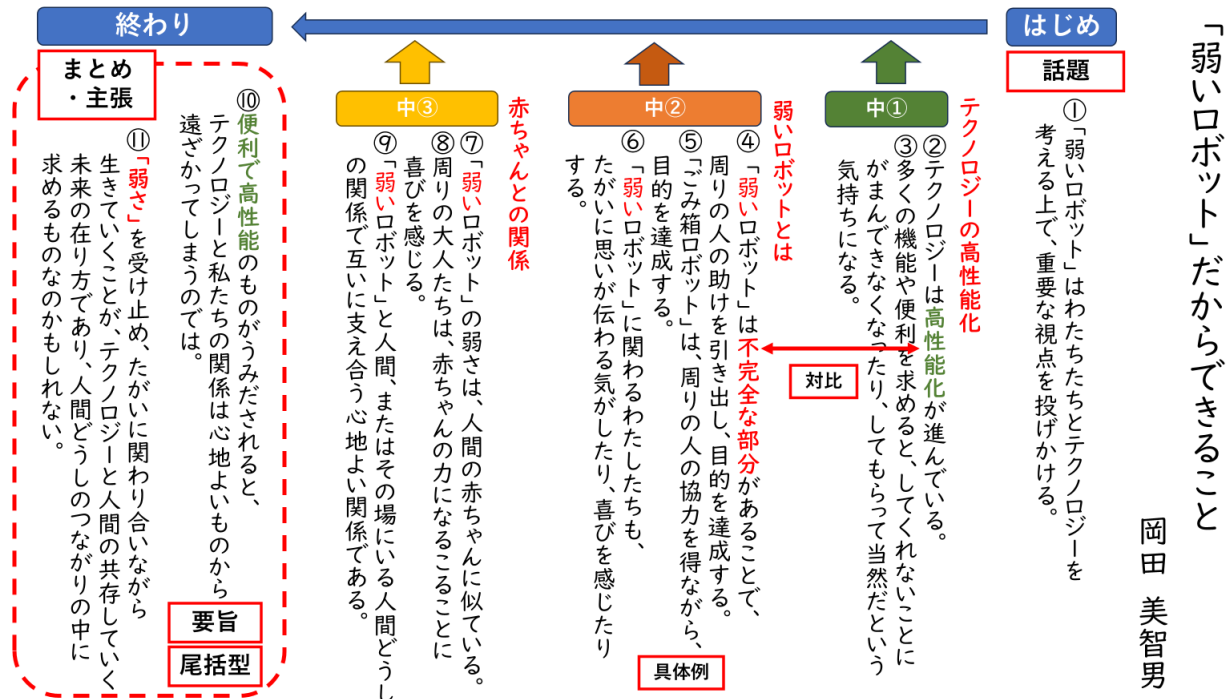
本単元の重点指導事項は、学習指導要領における【思考力、判断力、表現力等】の「C読むこと」（1）オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」である。

ロボットに関するイメージマップを作成し、多角的にとらえることの意味を押さえる。そして単元を通して、「どんなロボットがあるとよいか」についてイメージを作成し、二つの異なる立場の文章を読んだり、友達の意見を交流したりして考えの変容や深まりをみとっていく。

（2）児童の実態について「児童観」

(3) 教材の活用について「教材観」

「弱いロボット」だからできること



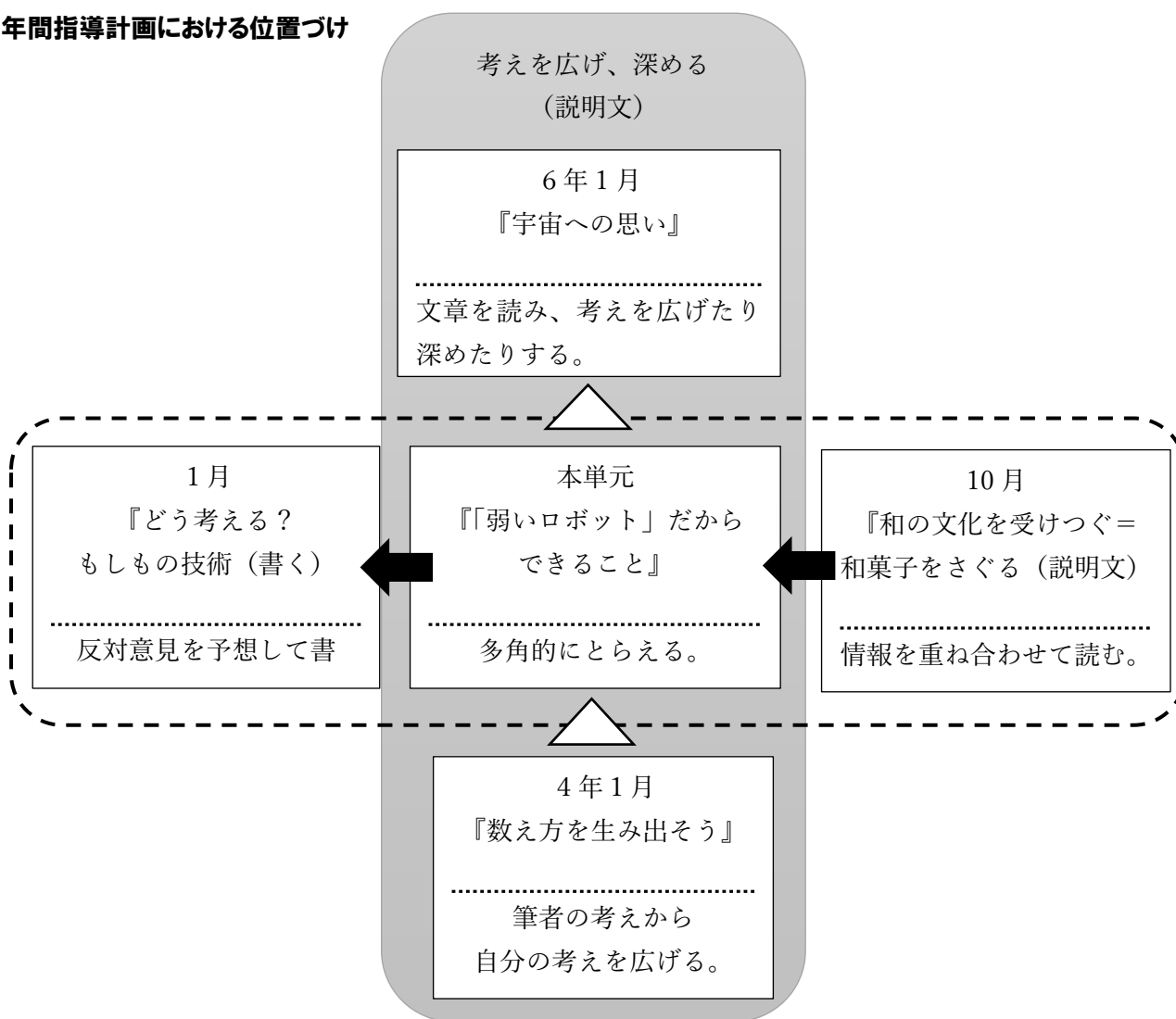
<内容的価値>

現在のテクノロジーの進歩の背景にある、「便利で高い性能を持つものほどよいものだ」という考え方に警鐘を鳴らすものである。あえて不完全に作られた「弱いロボット」はこの問題意識のもとに作られ、『弱さ』を受け止め、たがいに関わりながらいきていくこと」にテクノロジーと人間との共存の未来の姿について述べている。

<表現上の特徴>

- ①段落はまとめと主張が合わさり、尾括型で論が進められている。
- ②③段落は「テクノロジーの高性能化」、④⑤⑥は「弱いロボット」と、対比的に述べられている。
- 『弱さ』を受け止め」を説明するために、⑦⑧⑨は「赤ちゃん」を例として述べられている。

5 年間指導計画における位置づけ



6 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

		目標	主な学習活動	評価規準(評価方法)
1	見通す	多角的とはなにか考え、学習の見通しをもつことができる。	- ロボットから連想し、イメージマップを作成する。 - どんなロボットがあるとよいかについて話し合い、「多角的にとらえる力」を身につけることを確認する。 - 資料「ロボット開発は進む」と「弱いロボット」だからできることを読む。	主体的に学習に取り組む態度① 【ノート】
2 (本時)	取り組む	「弱い」とはなにか、文章から自分の考えをもつことができる。	- 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 - 本文を分類し、「弱いロボット」とはどのようなロボットなのか話し合う。 - 本時の学習を振り返り、「弱いロボット」を言い換える。	思考・判断・表現① 【発言・ノート】
3		論の進め方について考え、それを踏まえて自分の考えをまとめることができる。	- 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 - 筆者の考えを読み取り、筆者の考えに対する自分の考えをノートに書く。 - 本時の学習を振り返り、イメージマップを広げる。	主体的に学習に取り組む態度① 【ノート】

4		ロボット開発の良さを読み取ることができる。	- 資料「ロボット開発は進む」を読み、ロボット開発にはどんなよいところがあるかを話し合う。 - 本時の学習を振り返り、イメージマップを広げる。	知識・技能① 【ノート】
5		二つの文章から多角的に捉え、自分の考えを伝えることができる。	- 本時のめあてを確かめる。 「意見」「事実」「考え」の三段論法を図式化する。 - 自分の考えについて根拠をもって説明する。	主体的に学習に取り組む態度① 【ノート】
6	まとめる	友達のことを踏まえ、自分の考えをまとめることができる。	- 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 - イメージマップをもとに、ロボットとの未来に必要なことを一つ選び、班で話し合う。 - 自分の考えをノートにまとめる。	思考・判断・表現② 【発言・ノート】

7 指導の工夫

できそう！やってみたい！！前のめりに学ぶ児童の育成
国語科説明文における「読み解く力」の育成

<読み解く力ポイント> 【係り受け解析】におけるつまずきポイント

比喩表現を用いて表現された文を、正しくイメージできない児童がいる。「弱いロボット」に関する特徴と「強いロボット」に関する特徴を紙にまとめ、分類することで弱いロボットに関する文章を理解しやすいようにする。

<前のめりポイント>

単元の導入で、ロボットに関するイメージマップを作成し、多角的に捉えることの意味を押さえる。そして単元を通して、「どんなロボットがあるとよいか」についてイメージを作成し、考えの変容や深まりをみとる。また「弱いロボット」に関する特徴と「強いロボット」に関する特徴を紙にまとめ、分類することで弱いロボットに関する文章を意欲的に読み取れるようにする。

8 本時（全6時間中の第2時）

（1）ねらい

「弱いロボット」と「強いロボット」について書かれた叙述に線を引くことを通して、事例を対比的に「弱いロボット」について友達に説明することができる。

（2）展開

	○具体的な学習活動・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ※「読み解く力」との関連 ■学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
I n p u t	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ○写真を「弱いロボット」とその他のロボットに分類する。 ・人間より強い力を出せるのは「強いロボット」 ・「ムー」としか言えないのは、弱い。 ・そもそも「弱いロボットができること」とは？	◇イメージマップに「弱いロボット」を書き足し、本時のゴール（アウトプット）のイメージをもたせる。 ◇写真の中に22世紀ネコ型ロボットを混ぜ、そもそも弱いロボットとは何か、根拠を確かめるきっかけを作る。 ◇対比的に事例を扱うため、他のロボットを仮に「強いロボット」として扱う。
「弱いロボット」とは何かを文章を引用して、友達に伝えよう		
T h i n k	○「弱いロボット」に関することと「強いロボット」に関することを役割分担し、線を引く。 <強いロボット> ・人間の能力をこえた強い存在 ・インターネットから必要な情報をいつでも得られる ・自動車の自動運転の実用化 ・高性能化が進んでいる ・「便利で高い性能を持つものほどよい」 <弱いロボット> ・自分ではごみを拾えない ・いっしょに手をつないでいるだけのロボット ・自分と人々との関わりだけでなく、周囲の人どうしの協力関係も作り出す。 ○「弱いロボット」とはどんなロボットか、特に大事な文を選択し、共有する。 ○「弱いロボット」を隣の友達に伝える。 ・「弱いロボット」とは、赤ちゃんに似ていて、人どうしの協力を作り出すロボット。 ・「弱いロボットは」ただ、何もできないのではなく、人どうしの協力関係を作り出すことができる。	◇主体的に取り組むことができるように、役割分担をする。また役割ごとに確認する時間を設ける。 ①班で ②同じテーマで 廊下側「強いロボット」 窓側「弱いロボット」 ③班で共有 ◇具体的な事例だけを選ぶ児童がいる場合は、教師があえて、負事例として取り上げ、抽象的にできることを選べるようにする。 ■「弱いロボット」について、話の中心になる文を選択できている（発言） ◇「強いロボット」と比較しながら友達に伝えるように意識させる。 ◇イメージマップにまとめる前に、音声言語で整理をする。
O u t p u t	○イメージマップにどんなロボットがあるかとよいかまとめる。 ○本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	■弱いロボットのよさを理解し、イメージマップを広げている。（発言・イメージマップ） ◇振り返りの視点を与え、自分の学び方を振り返らせる。

成果	課題
・導入で身近なロボットをいくつか提示したことで、前のめりに学習に入ることができた。 ・文章中の「強いロボット」と「弱いロボット」についての記述を線で色分けしたことで、対比的に捉えやすくなった。 ・意見を共有する時間を設けたことで、新しい気づきが生まれ、多角的に考えられていた。	・何のために弱いロボットが必要かを考える上で、教材文は順番通りに示した方がよかった。 ・1単位時間に扱う内容が多かった。イメージマップへの入力は何時間行うのではなく2単位時間に1回など限定してもよかった。 ・発言することが苦手な児童の考えを、授業に取り入れることができなかった。